



海環境尺（うみかんきょうじゃく）へようこそ！～水産紙細工シリーズ第4弾～



三陸いわての海は、寒流の親潮、暖流の黒潮及び津軽暖流の三海流が複雑に交錯し、潮境では良好な漁場が形成され、古くから世界三大漁場の一つとして知られております。

そんな自然豊かで美しい三陸いわての「海の環境」について、少しでも理解を深めていただければいいなという思いから、岩手県では「海環境尺」を考案しました。

内容については、海で起こっている①「藻場（わかめ・こんぶ等の海藻群落）」によるCO₂吸収効果と②魚介類（あわび・ほたて等）の「貝殻」によるCO₂吸収効果を、物差し感覚で測ることができるものです。

親子で一緒に楽しく作れるよう紙細工風に仕立ててあり、次のサイトからご自由にダウンロードできますので、是非お試しください。

<http://www.pref.iwate.jp/~suisan/umizyaku/index.htm>

【海環境尺の動かし方及び読み方】

●本尺は、上尺・中尺・下尺の3種類からなっておりまして、上尺（青色）は、中尺の項目（藻場、貝殻など）に応じたCO₂吸収量（単位：100g）を物差しを動かしながら読むことができます。（CO₂吸収量の計算用）

●次に中尺（白・薄緑色）は、CO₂吸収量を知りたい項目（藻場、貝殻など）及び各項目ごとの数量を示しております。

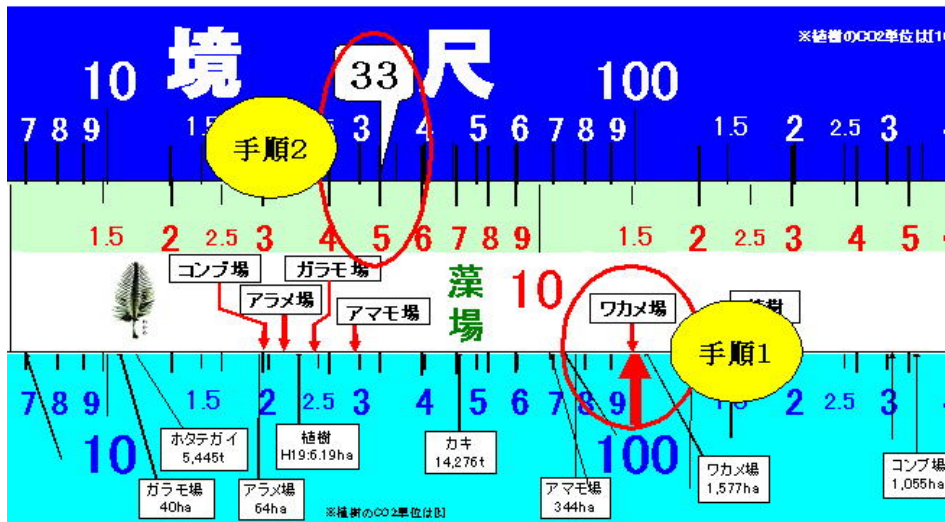
藻場・植樹の単位は「㎡」、貝殻の単位は「個」で表しており、各項目の数量は、薄緑ラインにある数字で読みます。

●最後に下尺（水色）は、上中尺のように物差しを動かしながら読むものではなく、下尺のみで動かさず読むものです。内容は、岩手県の各藻場面積及び各魚介類生産量の現状に応じたCO₂吸収量（単位：100t）を読むことができます。（CO₂吸収量の現状）

それでは具体的な事例を見てみましょう！

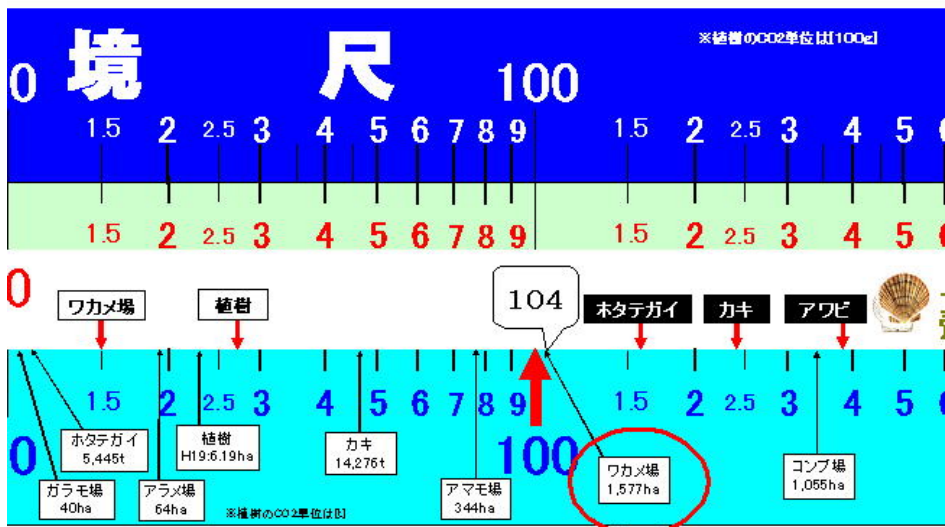
まずは、上尺と中尺を使ってCO₂吸収量を読み取る方法についてご説明します。

①中尺の各項目（下図ではワカメ場）の下向き赤矢印を、下尺（水色）の太赤矢印にあわせませます。【手順1】



②ワカメ場の5㎡あたりのCO₂吸収量を読みたい場合は、中尺の薄緑ラインの「5」のところに位置する上尺（青色）の数値（33）がCO₂吸収量となります【手順2】。上尺のCO₂単位が100gなので、ワカメ場5㎡あたりのCO₂吸収量は、33×100g=3,300gとなります。

③次に下尺（水色）を使って、岩手県のワカメ場全体でのCO₂吸収量の現状を知りたい場合は、ワカメ場（県全体で1,577ha）の黒矢印の目盛り（104）がCO₂吸収量となります。下尺の単位が100tなので、県全体のワカメ場におけるCO₂吸収量は、10×100t=10,400tとなります。



ご不明な点などございましたら、県水産振興課（019-629-5818）までお気軽にご連絡願います。